

その三「石津っ子クラブ」

訪 問 日 平成29年11月22日（水）
訪問場所 浜寺石津校区地域会館、浜寺石津校区コミュニティーホール
主 催 者 浜寺石津校区まちづくり協議会、浜寺石津校区福祉委員会
訪 問 者 田間 泰子委員、服部 節子委員（主催者として、浅野 勲委員）

■ 概 要

「石津っ子クラブ」とは

【石津っ子クラブ】

○浜寺石津校区の小中学生を対象とし、平成29年7月12日から、毎週水曜日14:00から18:00に、遊びや読書、宿題などを行う居場所として開催しています。子どもの定員50名の登録制で無料です。平成29年11月現在、小学校1～6年生が利用しています。

地域のボランティアが宿題支援などを行っており、保護者の参加も歓迎しています。帰宅時には保護者のお迎えをお願いしています。

【石津ミニ子ども図書館】

○保護者の方々からの要望による石津っ子クラブに併設した小規模な図書館です。図書は、補助金や寄付金による購入のほか、西区図書館からの定期的な貸出図書です。

【石津っ子食堂】

○15:00から実施し、100円で軽食を提供している子ども食堂です。石津っ子クラブに登録してなくても、利用可能です。

石津っ子クラブで、地域のボランティアの方々が宿題支援を行っている様子





石津ミニ子ども図書館では、読み物などが手作りの本棚に収められていました。

石津っ子食堂で子どもたちが軽食を楽しみ、ボランティアの方々に感謝の気持ちを伝えていました。



「浜寺石津校区まちづくり協議会」とは

○平成24年12月に発足した市民団体です。校区内における各種団体間の相互の親睦と連携を図り、地域的な活動を行うことにより、地域の課題を自らで主体的・自己完結的に解決を図るよう努めるとともに、良好な地域社会の形成及び維持に寄与することを目的としています。

○西区まちづくり協議会による平成29年度の補助金を獲得し、石津っ子クラブを設立しました。

○主に、次の活動を行っています。

- 地域における課題を自らで主体的に解決するための事業の企画立案、実施に関すること。
- 地域における自主的活動の促進に必要な協議と各種団体間相互の連絡、協調、交流に関すること。

■ 「堺が考える社会教育」の観点からみると

ともに学んだり、教えたりするためには

堺市社会教育委員会議提言書 13頁

○浜寺石津校区まちづくり協議会は、石津っ子クラブを立ち上げるにあたり、子どもの居場所づくりという課題に、学校教育の外でこそできること・すべきことを地域で分かちあうことで取り組もうと考えました。現在、石津っ子クラブを支える多くの方々がこの活動を分かちあっています。

例えばこんなこと(気づく)

○活動の中心となる方は、堺市立小学校で校長まで務め、退職後も堺市更生保護女性会や福祉委員会の活動、また自ら子どもの居場所づくりに取り組んで来られた方です。また、現在西区教育健全育成会議の会長もされています。よって、長年の豊富なご体験から子どもや保護者を取り巻く多くの課題に気づき、解決のために行動しておられます。そのなかで、学校教育の外だからできること、すべきことについて気づき、行動すること

が、最も重要であると言われてしています。学校の外には、子どもたち・保護者の生活空間があり、多くの地域の人々がいます。これこそが社会教育の必要性の理由であり、可能性の根拠だと思います。

○もうひとつの気づくこととして、こども会への加入率の減少が挙げられます。個々人の印象ではなく、裏付けのある明白な数値に人々が気づくとき、それが人々を動かす大切な根拠になると思います。

例えばこんなこと【表わす】

○活動の中心となる方をはじめ、ボランティアの方々は、子どもたちに声を掛け、笑顔を向け、多くの場合は褒め、ときにはピシッと注意しておられました。子どもたちは、自分たちを受け止め支えてくれる社会関係を、大人たちのこれらの表現行動から学び、自分たちも声を掛けたり、時には我儘を言ってみたりしながら育ちあいます。

○子どもたちは、石津っ子クラブがなければ見向きもしなかったかもしれない地域の「おじさん」「おばさん」たちに、自分自身を表現しています。それは、安心し、心を開いていくプロセスだと思います。

例えばこんなこと【分かちあう】

○石津っ子食堂の時刻になると、子どもたちの雰囲気の変化したように感じました。子ども食堂は、ともに何かを食べるという分かちあいの場であり、ボランティアも含み、年齢や性別が入りまじって話をしながら食事を楽しんでいます。提供される食事は、軽食で、決して豪華で手が込んだメニューではありませんが、手作りで温かく、それを一斉に分ちあうことが、子どもたちの心を何よりもたっぷりと満たしたように感じられました。



訪問時の石津っ子食堂のメニュー

石津っ子食堂で軽食を食べる子どもたち、保護者と社会教育委員



堺らしさ

堺市社会教育委員会議提言書 17頁

○子どもの発育保障という「人権」の観点、さまざまな国籍の子どもたちも参加しているという「国際」の観点、そして地域の課題は地域自ら解決するという「先人」の観点から、堺らしい活動が立ち上がったと考えました。

例えばこんなこと【人権】

○子どもの発育保障という観点で、まさに地域による人権保障の取組であると思います。

例えばこんなこと【国際】

○外国籍の子どもたちが参加し、集団生活に徐々に慣れてきています。

○今後、堺市もますます多国籍の子どもたちが増加すると思われるので、貴重な機会だと思われます。

例えばこんなこと【先人】

○地域による子どもの健全育成という課題に対して、自ら解決するという中世の自治都市に裏付けられる住民自治がしっかり根付いています。

さまざまな「つながり」

堺市社会教育委員会議提言書 21頁

○地域を支える市民団体、元教員や元保育士の方々など、子どもの居場所づくりのためにさまざまな担い手が、それぞれができることで関わっていました。

○場所は、静かな環境の地域会館で近くに公園があり、外遊びも可能です。また、地域会館内にはミニ図書館が、隣の建物には子ども食堂のための和室もあり、目的ごとの空間を上手に活用していました。

○図書は、西区図書館から定期貸出制度、子ども食堂の食材にはフードバンクを活用するなど、上手に「つながり」を活用していました。

例えばこんなこと【担い手】

○地域を支えるさまざまな市民団体とつながっていることが大きな強みです。加えて、石津っ子クラブでの学習支援のために、元教員・保育士・塾指導者、更生保護女性会、町会長等の方々のボランティアを当番制で確保できています。老人会や福祉委員会などに、これまで地域活動に参加していなかった地域の方を掘り起こしてきたことは、大きな「つながり」だと感じました。

○もちろん、学習支援のほかに子ども食堂や帰宅時の見守りなど多様な関わり方があり、いろいろな地域の方が、その経験やスキルを生かしてつながっています。

例えばこんなこと【場所・空間】

○校区の中心にある公民館ではなく、西端にある地域会館が非常に良いと思います。もちろん、通うためには大きな幹線道路を渡る必要があり、自宅から地域会館までの距離が遠い子どもは、通いにくいという弱点があります。しかし、この地域会館は、路地の突きあたりにあって自動車の往来がなく静かです。また、入り口わきに公園があり、子どもたちは建物内での遊びや宿題と、公園での外遊びとの両方を安全に行うことができます。

○石津っ子クラブを開いているコミュニティホールは、明るく、机と椅子のほか、一部に畳コーナーを設けて子どもたちの好きな場所で勉強ができるように工夫されています。ホールから出て廊下向かいにはミニ図書館があり、勉強のための参考書その他の図書やゲームが置かれた小部屋で、特別な空間という趣があります。

○子ども食堂は、隣の建物に移動することで、クラブ（学習や遊び）と食事をきちんと切り分けることができます。食堂は、二間続きの和室に大きな机を囲む、何やら和風旅館の雰囲気、これもまた違った雰囲気となっています。

○目的ごとに違う空間が非常に上手に作られ、かつ接近していますので、濃密で不思議な子どもたちの居場所になっているように感じられました。

例えばこんなこと【物事】

○居場所を作るには多くの物が必要ですが、図書は西区図書館からの定期貸出制度を活用し、ミニ図書館の本棚はボランティアの手作りです。子ども食堂の食材にはフードバンクも活用しています。地域内外に存在する人や物のさまざまな資源を懸命に探しつなぐことで、子どもたちの居場所が支えられています。

地域会館の前の公園で楽しそうに遊ぶ子どもたち



つながりの質

堺市社会教育委員会議提言書 24頁

○活動の中心となる方である校区福祉委員長が積極的に人の知識や経験、そして制度、物事をつなげ、子育てを地域に開き、周囲の多くの人々もつながっていました。

例えばこんなこと【違いを認めあう「つながり」】

○地域でのさまざまな担い手がそれぞれの得意分野での知識や経験などを発揮し、また潜在的な知識や経験などを地域で掘り起し、ひとつの活動に集約していました。

例えばこんなこと【外に開かれている「つながり」】

○子育てを保護者と学校だけでなく地域に開いていく、そしてその地域の営みには堺市や全国的なフードバンクなどの支援を活用していく、という点で外に開かれているのではないのでしょうか。

例えばこんなこと【自ら進んでいく「つながり」】

○活動の中心となる方の、信念と情熱に基づいて自ら突き進む力が凄いと感じました。どの地域においても、新しいことを始める時は、この様な方の存在が必要なのではないのでしょうか。活動の中心となる方が自ら進んでいくことに共感して、周囲の多くの人々も自ら進む力を発揮し始めるように感じます。

■ つながるといいな

○西区の一番西側には臨海工業地帯があります。今後、地元や市内の企業や商工会議所などにつながって、CSR（企業における社会貢献）と地域振興という観点から支援を受けることができれば良いと思います。子どもたちには、学校卒業後の就労について学ぶ機会も得られると思います。

○0歳から4歳位の子育て支援は、時間的にも無理でしょうか。訪問した時には、クラブの子どもの妹の0歳児もおられましたので、本当に赤ちゃんから大人まで揃っているということで、世代間の交流も十分にできていたと思います。保育や介護の現場が近くにあれば、子どもたちは命の大切さを知ることができ、世代間交流もより深まるのではないかと思います。

■ 訪問して感じたこと

○活動の中心となる方が石津川駅に迎えに来てくださった後、石津っ子クラブに行くまでの間に、活動の中心となる方は子どもや保護者などに道途中で多く声掛けをしていました。堺の社会教育がめざす「つながり」がまさに実践されています。

○石津っ子クラブは、学童保育と似ているようで、似ていません。学童保育は、学校教育ではありませんが、

建物やスタッフなどは校内、あるいは行政が管理し、学童スタッフとの関係は仕事です。しかし、石津っ子クラブは、市民が作る居場所であり、関係です。子どもたちは、石津っ子クラブや石津っ子食堂で出会う大人と、日常の地域のなかで再会し、言葉を掛けあうことができる。これは、地域の市民による活動にしかできない「つながり」です。

○子ども食堂で子どもたちが食べ終わった時に、活動の中心となる方が子どもたちみんなにお話をして、ボランティアやその他の方々への感謝の気持ちを持つようにと子どもたちに伝えていました。それは、目に見えない「つながり」も子どもたちを支えている、ということ子どもたちに感じさせる内容で素晴らしいと感じました。

○開始初年度の補助金は得られましたが、その後の運営はどのように継続できるのでしょうか、市民活動だからその心配があります。

○活動資金の確保は急務ですが、家庭から集めるのではなく、二年に一度位バザーなどをして資金集めをしようでしょうか。地域の人たちの協力でクラブが成り立っているとすれば、「つながり」も強くなるのではないかと思います。子どもたちが手伝えることがあれば、なおのことと思います。

○今後は、高齢者が子どもの数を上回る時代となり、一人ひとりの子どもはとても大切です。子どもも他の大人と仲良しになるという体験は大切なことで、大人と対等に話ができる中学生や高校生等が「みんなひとつ」という現象が生まれつつあると思いました。

■ 主催者からのメッセージ

社会教育って？

○地域社会みんなが協力して行うすべての教育が、社会教育だと思っています。

○今、私たちが行っている・行おうとしている取組が、社会教育の一つであると思っています。

○老若男女を問わず、ともに学びあい教えあい、高まりあうことであると考えます。

「つながり」を広げるって？

○今までは、他の団体の取り組みに積極的に目を向けることなく、それぞれが熱心に取り組み、各々の成果をあげる努力をしてきました。今後は、各種団体が手を組み、「つながって」活動をすれば、今まで以上の成果を上げることができると考えています。連合町会の各種団体が、「石津は一つ」を合言葉に、「つながり」の輪を広げて賑わいのある、安心・安全な街づくりをすることであると思います。

訪問してみたいですか？

○西保護司会主催の親子茶会

西地区の保護司会は、夏休みに千利休ゆかりの地、南宗寺で「親子茶会」をしています。南宗寺の老師様のお話を聞き、「おもてなしの心」を学びます。老師様は、暑い夏のお茶会をするのに、お世話くださる方のご苦勞を子どもたちにわかりやすくお話しされ、子どもたちは「心」を学びます。その後、観光ボランティアさんガイドで南宗寺を歩き歴史を学びます。子どもたちは、ゆったりした穏やかな気持ちを味わって帰ります。

■ 社会教育委員会議の活動や提言書については、堺市ホームページで公開しています。



「堺市」 「社会教育」

検索

